

(あとがき)

不確定のことを長々記しました。御参考になるものであれば御採用下さい。

駄筆を弄しました。益々御健康に、目下御從事中の事業御完成を、はるかに御祈り致します。

(編者 元元がき)

先年、関東半島バス旅行の途中、私共は馬上八幡に立寄り、この「猪方大明神」を拝し、川を隔てた向うの田圃のほとり、僅かな樹立のあたりを指さして、猪方惟深の終焉の歴史を想定した。立石の馬上という今日での地名を、誤って馬の上でとあさばかり思っていたはしなかつたか。

ともかくも、立石の、とろろの郷土史に明かるい伊東氏からの、詳しい資料の考証を加えての「寄稿感謝」外ない。(再)

主張

住みよい美しい環境を、いろいろな公害から守ろう

会員 平 川 繁

佐伯の自然が破壊され、川や海や空が汚れてきたのは、政治が企業を保護しすぎたことにもよるうが、一面市民の意識の弱さが問われてもよいのではあまいか。

最近の佐伯湾は、いくら海がきれいになり、番匠川に昔のように白魚がとれるのではないかとうわさされるようになっていいるが、佐伯湾には、大な量かへド口がたまっている。そのことを知っていきながら、企業は原油基地、外資基地、歌謡プラントと、自分勝手な施設を進めようとした。日本セメントやニ平合板の粉塵、煤煙もいつも問題にされている。

これら成すべて公害について目覚めた市民の、協力団結の力で葬り去り、または今も執拗に反対運動をつづけている。

最近では、番匠川の上流水匠村の石灰石採掘場と、石灰工場の騒音と粉塵が、川を汚し住民の生活をかびやかして問題となっている。故ってよいものであろうか。

史談会は、美しい住みよい郷土を尊重し、山や川や海を守り、そこにある史跡や文化財を破壊から守ろうとして公害追放市民会議に参加した。もちろんそれ以前四十名ばかりの会員の、それぞれ自主的参加であった。

しかし、佐伯市、南郡に起こっている各種の公害問題は、殆んど何一つ根本的に解決されていない。企業だけがでなく、土地造成や埋立てや、農村地帯の畜産や、海岸部の養殖事業、さてはめいめいの家からの排出汚水に至るまで、公害は到る処に次々と出ている。

公害の追究は、一部団体(例えば市民会議や漁業団体など)に任せておいて、われ関せずと逃がっている卑怯さは許せない、住民みんなの問題としたい。

このような観点から、史談会に連なる会員の皆さんから、この際、積極的なご参加の申し出を希望したい。

古い歴史の跡がいたる所があり、貴重な文化財が多く残され、山紫水明の美しい自然環境、それらはわれわれみんなのものであり、しかも今後の次の世代の人々に譲らねばならぬ責務もある。一人でも多く参加し、協力下さるよう念願するものである。

(終)

公害追放市民会議に加入する手引き

中心先 佐伯史談会事務局 羽柴幹事宛

会費 年間三〇〇円(振替又は二〇〇円切手十五枚で)

×切手 二月中心(必ず資料、市民会報を送る)